

# 第2回 幼保小連絡会の まとめ

＝17小学校区における取り組み＝

日時：令和4年(2022年) 1月～3月実施

小学校区	蟹刀池山	桜井谷東 桜井谷学 箕面自由学	明輪 克箕	大少上	池路野	野北緑丘	東豊泉	中台丘	南新西	丘田南丘	東北丘
実施方法	オンライン実施	書面実施	書面による取り組みの交流	書面実施	書面実施	集合実施	集合実施	集合実施	書面実施	書面実施	訪問・電話等
開催日時	1月17日(月) 15:00~16:15					1月17日(月) 15:00~16:15	1月17日(月) 15:00~16:30	1月17日(月) 15:00~16:30			
メインテーマ	「つなごう 子どもの育ち～幼児期の終わりに育ってほしい姿をみずえて～」										
サブテーマ	幼児期の生活の中で 友だちとつながる力										
会場	オンライン		つなごう 子どもたちの育ち			野北緑丘小学校	東豊泉小学校	東豊泉小学校			
司会	箕池小学校					野北緑丘小学校	東豊泉小学校	東豊泉小学校			
記録	各校園所	各校園所	克明小学校	各校園所	各校園所	北緑丘小学校	東豊泉小学校	東豊泉小学校	各校園所	各校園所	東豊泉小学校
発表校園											
認定こども園	認定こども園 幼児連携型認定こども園 神童幼稚園 認定こども園 張池文化幼稚園 アトリエとねやまこども園 とねやまこども園 蟹池こども園	幼児連携型認定こども園 神童幼稚園 のばたけこども園 桜井谷こども園 認定こども園 豊中みどり幼稚園 とよなか文化幼稚園	幼児連携型認定こども園 豊中愛光幼稚園 認定こども園 張池文化幼稚園 認定こども園 とねやまこども園 認定こども園 とねやまこども園 認定こども園 こもれびのもり	幼児連携型認定こども園 神童幼稚園 のばたけこども園 本町こども園 あけぼのほんぼこども園 とよなか文化幼稚園	認定こども園 豊中みどり幼稚園 のばたけこども園 北緑丘こども園	認定こども園 豊中こども園 幼児連携型認定こども園 白鷗チャイルドセンター南丘	認定こども園 せんりひびり幼稚園 ひびりにいろいろ保育園 しんでんこども園 西丘こども園 東丘こども園 幼児連携型認定こども園 白鷗チャイルドセンター南丘 認定こども園 追手門学院幼稚園 北丘聖愛園 アトリエとねやまこども園 あけぼのトロッパス	認定こども園 せんりひびり幼稚園 ひびりにいろいろ保育園 しんでんこども園 西丘こども園 東丘こども園 幼児連携型認定こども園 白鷗チャイルドセンター南丘 認定こども園 追手門学院幼稚園 北丘聖愛園 アトリエとねやまこども園 あけぼのトロッパス	認定こども園 せんりひびり幼稚園 ひびりにいろいろ保育園 しんでんこども園 西丘こども園 東丘こども園 幼児連携型認定こども園 白鷗チャイルドセンター南丘 認定こども園 追手門学院幼稚園 北丘聖愛園 アトリエとねやまこども園 あけぼのトロッパス	認定こども園 せんりひびり幼稚園 ひびりにいろいろ保育園 しんでんこども園 西丘こども園 東丘こども園 幼児連携型認定こども園 白鷗チャイルドセンター南丘 認定こども園 追手門学院幼稚園 北丘聖愛園 アトリエとねやまこども園 あけぼのトロッパス	認定こども園 せんりひびり幼稚園 ひびりにいろいろ保育園 しんでんこども園 西丘こども園 東丘こども園 幼児連携型認定こども園 白鷗チャイルドセンター南丘 認定こども園 追手門学院幼稚園 北丘聖愛園 アトリエとねやまこども園 あけぼのトロッパス
幼稚園	刀根山こころ保育園 いずみ保育園 HOPPA豊地駅前	あけぼの風の森保育園 豊中みどりこ保育園 あけぼのひだまり保育園 のどか保育園 羽鷹池ひだまり保育園	超光寺幼稚園 おひささま門町保育園	梅花幼稚園 宮山幼稚園 豊中幼稚園	春日荘聖マリア幼稚園 緑ヶ丘幼稚園 箕面自由学園幼稚園	春日荘聖マリア幼稚園 緑ヶ丘幼稚園 箕面自由学園幼稚園	東豊中幼稚園	東豊中幼稚園	みくま幼稚園 アソノカ幼稚園 東豊中幼稚園	みくま幼稚園 アソノカ幼稚園 東豊中幼稚園	アソノカ幼稚園
保育所(園) 事業所内保育事業 小規模保育事業施設	刀根山こころ保育園 いずみ保育園 HOPPA豊地駅前	あけぼの風の森保育園 豊中みどりこ保育園 あけぼのひだまり保育園 のどか保育園 羽鷹池ひだまり保育園	おひささま門町保育園	梅花幼稚園 宮山幼稚園 豊中幼稚園	春日荘聖マリア幼稚園 緑ヶ丘幼稚園 箕面自由学園幼稚園	春日荘聖マリア幼稚園 緑ヶ丘幼稚園 箕面自由学園幼稚園	東豊中幼稚園	東豊中幼稚園	みくま幼稚園 アソノカ幼稚園 東豊中幼稚園	みくま幼稚園 アソノカ幼稚園 東豊中幼稚園	アソノカ幼稚園 ちびっこ保育園スカイライ



## 螢池・刀根山小学校区

- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、校区連絡会はオンラインでの開催とした。
- ・「学校だより」「園だより」を双方でメール配信し、子どもたちの様子や活動内容を共有した。
- ・学校見学会は中止となったが、その代替わりとして各小学校から「学校紹介（模造紙）」「学校カルタ」「一年生の生活の壁新聞」をいただいた。
- ・「学校カルタ」について、カルタで遊ぶことを通して、学校がどんなところなのかを子どもたちは知ったりイメージをもったりすることができた。
- ・「一年生の生活の壁新聞」について、「給食はおいしいよ。」「20分休憩はおもしろいよ」「マラソン大会があるよ」などの内容が書かれていた。それを見た子どもたちは小学校に期待を抱いていた。
- ・体験入学や学校見学会は新型コロナウイルス感染症の状況から中止となったが、職員が互いに行き来して情報共有したり、オンラインや電話で入学予定児の引継ぎをおこなったりした。

## 桜井谷・桜井谷東・箕面自由学園小学校区

テーマ【コロナ禍の中での子どもようすを交流しよう！】

### ○気になる子どもの様子

・コロナ禍になり、子どもたちも、保育者も従来のコミュニケーションの取り方に変化を余儀なくされ、子どもとのスキンシップも難しく、特に気になる子どもとのかかわりには大きな課題となった。また、マスク生活により顔の半分が隠れてしまうことから、互いの表情を読み取ることは困難ではあったが、子どもと遊びや保育の中でじっくりと向き合い、また職員間でも情報の共有を行うことで、一人一人に寄り添う保育を継続することができた。

・コロナ禍の感染拡大を心配して欠席が続く家庭もあり、その場合には定期的に家庭と連絡を取り合った。また保育の状況に応じて時間短縮で登園したり、保育後に元気な顔を見せてくれたりすることもあった。しかし、継続的な保育の積み重ねが難しいので、成長の差が課題である。

### ○コロナ禍での取り組み

・保護者が来園し、参観する機会が減ったことで、園生活の「見える化」に取り組んだ。特にブログを毎日アップし、子どもたちの園生活を紹介するなどして、子どもたちの生き生きとした活動をみて安心してもらえるように取り組んだ。

・保育において多くの小学校児童とのかかわりは難しかったが、併設小学校の先生に保育参加してもらい、特に年長児の運動会競技の「南中ソーラン」の取り組みでは、園児に楽しくわかりやすく指導、かかわりを持つことで、「小学校の先生っておもしろい！」「頑張って、もっと上手になるから、また見に来てね」など子どもからも積極的にかかわりたいという思いが見受けられた。

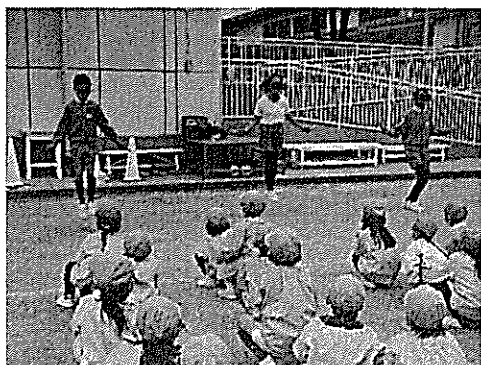
ソーラン指導の写真



・冬のマラソン週間では、マラソンの先導として併設小学校の先生に参加してもらい、園児にもわかる走り方の指導を含めて楽しく一緒に走ることを楽しんだ。

・併設小学校との交流も密を避けて行った。戸外でなわとびの活動をともにし、お兄さん、お姉さんの上手な跳び方や技をみて、意欲を高めることができた。小学生になることへの憧れや、就学に向けての期待を膨らませることができた。今後も継続的に1年間を通してかかわりを持つことで、子どもにとっても就学に向けての大きな安心感を持つことができた。また、多くの園児が期待や憧れを持てるよい機会となった。

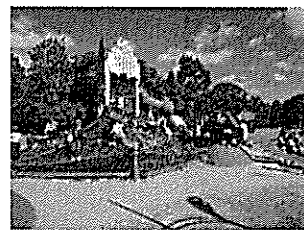
なわとびの写真



「小学校ってどんなところ？」

秋の遠足

ニフレル・万博記念公園



### ①小学校生活のスタート

緊張した中でスタートした4月。生活ルールを学んでいった1学期。

ランドセルの片付け方、トイレの仕方、靴箱、傘立ての使い方、遊具の使い方、座り方、えんぴつの持ち方、あいさつ、返事の仕方、給食当番のやり方、そうじの仕方

### ②子どもの発達と保幼小の連携を意識したくぐらせ期

大事なひらがなの学習では、「おる」「ちぎる」「はる」「きる」「ぬる」など、手先を使った作業も取り入れて行いました。

粘土で「あ」、クレパス・くぎで「く」、毛糸で「け」、蟬の折り紙をおって「せ」など。「やったあ!」「できた。」「どうするの。」「こうしたらできるよ。」子どもたちから聞かれたつぶやきです。「こいのぼり集会」では、クラスみんなでひとつの作品を作って、楽しみまし

た。(左写真) まだまだ、学校に慣れない時期には個別の声かけも必要でした。



### ③コロナ禍でもできることの体験を



2年生と学校たんけん

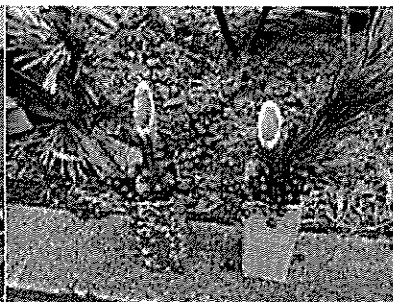
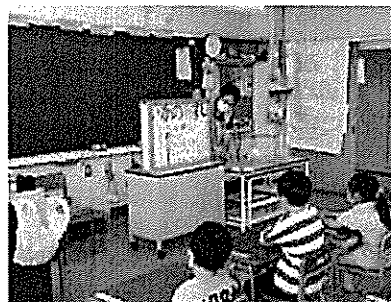
大きくなあれ!アサガオ

6年生とはじめての  
タブレット

図工でつくったふねを  
プールでうかべたよ!

さまざまな体験をともにしていく中で、互いのことを知り合っていた子どもたちでした。それまでつきかかってきた価値観とちがうことにも出会う中で、戸惑いを見せるこどももいました。「ちがっても、それぞれがいいんだよ。」ということ伝えていきました。

### ④地域の方に見守られて



いかのおすし  
地域の方の読み聞かせ

地域の方がとってくださ  
った竹をつかって門松作り

学校の梅を地域の方が  
ジュースにしてくださいました。

地域の方との深い関わりによって、学ぶ機会を得ることができています。地域の方に温かく見守られています。

## ○子どもの様子

入学当初は、親離れができない、学校のリズムに慣れないなどの理由で、登校を渋る児童も複数いました。教師が話をするとき静かにするのに時間がかかるが、全体的には落ち着いている学年でした。しかし、中には落ち着いて話が聞けなかったり、休み時間はチャイムで戻れず、着席ができなかったりする児童がみられました。各クラスにそのような在籍はしていないが、落ち着きがなかったり、こだわりが強く一斉指導が通らない子もいました。また、マイナス発言をする子や、集中できず、45分じっと座ってられない児童も複数いました。

3学期になり、入学当初に比べて、教室では落ち着いて話を聞き、課題に取り組む姿が多くみられるようになりました。自分のことだけでなく、周りに目を向けることができるようになった子も増え、困っている子に気づくと優しく声をかけたり、相手を気遣う様子も見られるようになりました。今年はコロナ禍であったが、昨年度に比べ形を変えて取り組めた行事も多かったです。はじめての校外学習では、グループの中で班長を中心にルールを守って行動することができました。グループ活動や係活動などの小集団の取り組みを行うことで、責任をもって協力しながら行動できるようになってきました。個別の生活面や学習面での成長はありましたが、一方で集団の中での勝手な言動や行動をする児童も見られます。今後、学校や学級のルールなど守るべきことを理解し善悪の判断をしっかり持って活動できる集団作りが必要になってくると感じています。

## ○コロナ禍の中での取り組みについて

### <1学期>

1年生迎える会では、全校児童で集まることはできませんでしたが、オンラインで各教室を繋ぎ、1年生が運動場で「1年生になったら」をうたっている姿を2年生から5年生の子どもたちに見てもらうことができました。その日のために、入学してまだ慣れない子どもたちでしたが、毎日教室で練習をして当日は緊張しながらも頑張っている様子が見られました。6年生からカードをもらい嬉しそうでした。

異学年同士の清掃は、実施していない状況でしたが、1年生と6年生と一緒に清掃をさせてもらいました。ソーシャルディスタンスを取りながら、6年生と関わり清掃の仕方を教えてもらいました。

学年では、生活の学習で学校探検をしました。4、5人のグループにわかれて、校長室や保健室、給食従事員さんに話を聞きに行き、子どもたちだけで学校の中を探検する貴重な経験になったと思います。

### ○2学期

学年運動会を10月に行いました。団体演技や徒競走に挑戦し、時間も限られ、練習場所も密にならないように、そしてマスクの取り扱いなど1年生にとっては練習以外に課題が多くありましたが、その中で入学式以来、初めて保護者の方に学校での活動の様子を見てもらうことができました。また、子どもたちが運動会の進行を進めることにも取り組みました。

初めての校外学習では、支援を必要とする子も多く、職員14名で引率しキッズプラザ大阪へ行きました。キッズプラザでは、4、5人でのグループ活動をしました。事前に回りたいところを相談し、みんなでなかよくグループで活動することを目標に活動しました。

家族とのかかわりでは、「おうちのしごと」というテーマで、毎日自分がお家で出来ることを考え、お家の方にアドバイスしてもらいながら、いろんな仕事にチャレンジしました。

### ○3学期

1月末にマラソン記録会にとり組みました。保護者の方に見てもらう予定でした。コロナ禍の為、途中で変更になりましたが運動会と同じように、自分たちで司会進行を行い、今回は準備体操や整理体操リーダーにもチャレンジしました。

生活の学習では、1年間をふり返り自分の成長を1冊の本につくりました。1学期からタブレットを活用していたことで、パソコンの扱いにも早く慣れ、パソコンで作った作品や保護者の方からの聞き取ったことをまとめました。

## ○子どもの様子

- ・コロナ禍で様々な行事や行動が制限される中でも、「できない理由」を考えるのではなく、「できる方法」を考え、子ども達の楽しみは奪わないようにしていった。
- ・給食は黙食となり話しながら食べるという楽しみはなくなったが、給食時にはクラシック・ジャズなど様々なジャンルの音楽を聴きながら新たな雰囲気の中で食べられるように工夫した。
- ・「話を聞く・相手の思いを感じ取る」という点においても、楽しみながら手話を覚えたりしつつ、言葉はなくても思いを伝えることができるという経験もしていった。



# 克明・箕輪小学校区

【参加施設数】 小学校(2)校 こども園(6)園 幼稚園(1)園 保育所(園)(1)施設 児童発達支援センター  
小規模保育事業施設(1)施設 事業所内保育事業施設( )施設

## 1、 実施方法（書面開催）

## 2、 実施内容

### ①学年の取り組みと子どもの様子の交流

#### 克明小学校

学校生活が始まるにあたり、まずは「自分が好き」「友だちが好き」「みんなが好き」と思えるような子どもになってほしいと考えた。まず、自分を大切にすることが友だちとつながるためにも必要であると思い、どの取り組みを進める時にも「個をあたためること」を大切に考えた。(学校で働く人へのインタビュー、インタビュー報告会、宝物紹介、お手伝い大作戦)また、1年間を通して、学校で働く人、友だちのこと、自分のこと、自分を支えてくれている人のことを考えていくことで、自分や周りの人を大切に思っしてほしいと考えた。そして、みんなの前で報告や発表をすることで、自分の話を聴いてもらえる心地よさや、自分がまるごと受け止められていることも体感させたい。こうした取り組みを積み重ねることで一人ひとりの自己肯定感を高めていきたいと取り組んだ。

1年生は、元気で何事にもやる気があり、一生懸命取り組める子どもが多い。また、周りの子どもの発言や行動に対して、素直に「すごい！」と伝えることもできる。また、自分から進んで周りの友だちに声をかけることができる子どもも増えてきた。しかし、自分のことが優先になってしまい、周りのことを考えて行動することに課題が見られる。(例えば、給食の受け取りの際に、他の子よりも早く取りに行きたいという気持ちを抑えることができなかつたり、自分だけが先生の手伝いをしたいなど。)

個別に子どもを見ていくと自分に自信が持てず、「自分にはいいところはない。」と自尊心の低さが課題にあるように感じる。

#### 箕輪小学校

**・トレジャーノート** 自分のことをきいてほしい、自分のことをはなしたくて、周りの友だちのことに気が付かない子どもが多かったため、友だちのよさに気づいてほしくてトレジャーノートの取り組みを行った。毎朝、友だちのトレジャーノートを受け取り、一日その友だちのことを観察して、その日の最後にがんばっていたことや、すてきだったところをノートに書いて渡すという活動をした。子どもたちは、はじめは友だちの良さを見つけられずに「書くことがない。」という子どももいたが、担任と一緒に考えて書く活動を繰り返す中で、自分で友だちの良さを見つけられるようになった。ノートを受け取る時も誰が何を書いてくれたのかを楽しみにするようになった。道徳の授業なども通して、自己肯定感を高めることができた。自分のよさ、友だちのよさにも気づけるようになった。

**・明日へジャンプ** 妊娠中や出産時の苦労やそのときの家の人の思いをインタビューを通して知った。また、家の人からの手紙を読んで、自分がとても大切に思われて生まれ、育ってきたことを感じ、思わず涙する子どももいた。家の人への返事には、家の人からの愛情を感じて、「これからもっとがんばりたい。」と書く子どもがたくさんいた。また、友だちの生い立ちを聞くことで、一人ひとりがそれぞれの家庭で大切に育てられているかけがえのない存在であることに気づくことができた。絵本「いろいろ家族」「タンタンタンゴはパパふたり」とおして、家族にはいろいろな形があることをした。さらに、児童養護施設「翼」の先生にもきてもらい、児童養護施設の子どもの生活を知り、施設に対して

「行ってみたい。」「遊んでみたい。」といった肯定的な感想を持った。学習の最後には、1年生になってできるようになったことを振り返り、自分の成長に気が付き、2年生になることへの意欲や期待を膨らませた。

**・世界のじゃんけん** 二学期の人権参観で、主にアジアの国のじゃんけんについて知り、発表する機会を持った。いろんな国のじゃんけんを楽しんだ。また、手のかたちが「ぐー・ちよき・ぱー」ではない、インドネシアのじゃんけんを知り、驚くとともにとても興味をもった。三学期には、中国の方を招いて、中国のことを教えてもらった。じゃんけんだけでなく、食べ物や行事、簡単な挨拶を教えてもらい、興味が深まるとともに、外国に対して好意的に受け止める姿がたくさんみられた。

## ぶっこう幼稚園

### ① 学年(年長・1年生)の取り組み(コロナ対策も含む)

友達と最後まで諦めずにやり遂げる経験・達成感が感じられるように、マーチング、和太鼓、合奏といった音楽を用いて取り組んでいる。自分で楽器パートを選ぶことで、責任感を持って最後まで取り組めるようにしている。コロナ対策では、手洗い、うがい、消毒、給食中の黙食、マスク着用に取り組んでいる。

### ② 子どもの姿(コロナ禍の影響も含む)

クラスよりも、学年で行動する時間が長く、クラス関係なくいろいろな友達と関わることができる。男女問わず、お絵描きが好きな子が多く、自由遊びでのお絵描きや絵画活動は楽しんで取り組む姿が見られる。今年の年長児は、どちらかというと控えめな性格の子が多く、活動に積極的に取り組めなかったり、自信を持っていないことでまわりの様子を伺う子が多い。そのため、保育教諭が安心できるように声を掛けたり、気持ちを受け止めたりするように心がけて関わってきた。始めてのことに對し、できへんとやってみる前からあきらめてしなかったり、自信が持てず、人前に立つことに對して恥ずかしくてモジモジする姿がみられ、自信をもつにはどうしたらいいのかを考えてきました。

## ともだちこども園

☆大事にしてきたこと☆

☆いろんなことにまずはチャレンジしてみよう!

☆いろんな気持ちを大事に、友達へ気持ちを伝えたり、話を聞いたり、どうするかを考えて、自主的に行動をしていこう!

☆異年齢の友達へどのように声をかけて関わればいいのか考えて交流をしていこう!

まずは、苦手なことでも、その子一人ひとりのペースでいろんなことに挑戦することを大切にしてきました。クラスの中で、縄跳び、鉄棒、上り棒、マットなどいろんな活動をしていく中、友達がやってみるのをみて、あんな風にやってみたらいいんやとチャレンジしたり、友達に「一緒にやろうよ」と誘ってもらったり「頑張ってる」と励ましてもらうことで、やってみようとしてチャレンジする姿が多くみられるようになっていきました。

自分の手作り縄跳びづくりやマフラーづくり、どんぐりやまつぼっくりでかざりづくり、折り紙など制作の楽しさを味わっていきたくと取り組んできました。友達に教えてもらったり、手伝ってもらったりしながら作る楽しさも感じ、最後までやり切った出来上がった時の喜びや達成感を感じることができました。

誕生会やディキャンプ、運動会など大きな行事を通して、クラスの友達みんなで力を合わせて取り組むことの大きな達成感も味わうことができました。友達一緒にする楽しさ、面白さも一層感じて友達関係も深まっていきました。

週1回、たてわり集会を持ち、異年齢交流をしてきました。造形などの時期も感染状況に応じて交流の仕方を考え

てやってきました。秋には、克明校区・箕輪校区のサロンにも参加させてもらい地域の方々と交流もしました。クラスだけでなく、異年齢の友達や地域の友達、保護者に活動をみてもらい「きりんぐみさんすごいね」「こんなことできるんや」と褒めてもらったり、認めてもらうことで自信がどんどんついていったと感じます。

園内では子どもたちもマスクを着用し、こまめに手洗いをしたり、感染予防に気をつけていきながら、できるかぎり、子どもたちが不自由なく楽しく過ごせるように考えてきました。

## おひさま岡町保育園

### ①学年(年長・1年生)の取り組み(コロナ対策も含む)

基本的な保育目標、特に『よく寝て、よく食べ、よく遊ぶ』という事を、より意識しながら日常の生活を大切にしたりした取り組みを行いました。給食は旬の食材をたっぷり使いながら、よく食べる事ができるような工夫、リズム運動や、戸外遊びを充実させてしなやかな健康な身体づくり、姉妹園との子ども同士の交流をおこないました。

### ②子どもの様子(コロナ禍の影響も含む)

コロナに対して、丁寧に手洗いをすることが位置づいてきています。しかし、コロナで遊ぶ場所や経験が制限されて、お休みの日などゲームやYouTubeをする子どもの低年齢化が気になるようです。

## 2【つなげよう、子どもの育ち～幼少期の終わりまでに育ってほしい姿を見据えて～】

### 克明小学校

①着替え、食事、持ち物の管理などが一人で行える。

②・自分や友だちを大事にできる。

- ・自分の気持ちを伝えられる。
- ・成功体験を積み、自信を持つ。

### 豊中愛光幼稚園

#### ① 小学校までにつけておきたい力

新しい事への挑戦や、友だちと協力する力がついてほしいと思います。園生活の中では、自分の思いを発表する子どもが少なく、新しい事への挑戦・作り上げていくことが多々ありました。取り組み始めても自分だけが楽しいと感じている場面があり、周りに目を向けていない姿もありました。様々な行事を通して少しずつ周りに目を向け一緒に取り組む楽しさや協力する喜びを3学期は味わえたと思います。小学校にいても、引き続き取り組んでほしいと思います。

#### ②育ってほしい子どもの姿

環境の変化に戸惑う子どもが多いため、安心して過ごせるように、様々な友だちや先生たちと、関わっていく必要があると思います。自分の思いを言葉にして相手に伝えることが難しい子どもが多く、誰に対しても自分の思いを伝え、その場で解決できるようになってほしいです。友だちとの関りの中で少し援助が必要な子どもがいますが、小学校も楽しく過ごすことができることを願っています。よろしくお願いします。

### ぶっこう幼稚園

#### ①小学校までにつけておきたい力

- ・自分の意見や気持ちを話す力、友達の気持ちを受け止める力、人の話をしっかりと聞く力を身につけてほしい

い。

・周りをよく観察し、困っている友達に優しく声を掛けたり、手を差し伸べてあげる力。

## ②育ってほしい子どもの姿

友達同士との関わりの中で、自分の気持ちをしっかりと伝えることが出来るようになってほしい。

また、相手の気持ちも受け入れ、互いに認め合うことが出来るようになってほしい。

## ともだちこども園

日々のあそびや生活の中から

- ・知識・技能の基礎
- ・学びに向かう力・人間性などの基礎
- ・思考力・判断力・表現力等の基礎

10の姿(☆健康な心と体☆自立心☆協同性☆道徳性-規範意識の芽生え☆社会生活との関わり☆思考力の芽生え☆自然とのかかわり・生命尊重☆数量・図形・文字等への関心感覚☆言葉による伝えあい☆豊かな感性と表現)をどのように日々活動の中で取り入れて進めていくのかをカリキュラムに抑えているところです。

クラスの中で、月のスケジュール表、日々のお当番表、グループのリーダー表、時計、今日の活動についてなどわかりやすく視覚で理解できるようにしたり、おもちゃ・おえかきなど自分たちであそびが進めていけるようにと環境について考えてきました。今日の人数は？と子どもたちに数を聞いたり、ドッチボールやリレーなどあそび、生活の中でも意識しています。

こんなことやってみたい！と子どもたちが発信したことに対してもどんな風にしたらできるのかを考えためして、あそぶことを大切にしてきました。

毎日、グループリーダーが主になって朝の会や終わりの会などを進めていたり、今日の感じた気持ちについてみんなの前でお話をしてもらったりしてきました。

日々の人との関係の中で、自分の気持ちを伝えることの大切さや友達の思いに気づいたり、その思いと一緒に共感したり、(困っている人・おかしいなと思っていることに対して)どのように友達へ関わっていったらいいのか、自分で考えて行動できる子どもになってほしいと願って日々保育を進めています。

## おひさま岡町保育園

### ①小学校までにつけておきたい力

- \* 生活面においては、自分で身のまわりの事を自分でやりとげる力や自分で見通しをもって行動する力
- \* 言葉で伝えようとしたり、人の話を聞こうとする力
- \* 自分で考えたようとする意欲や態度
- \* 興味や関心をもって、集中して取り組もうとする力

### ②育ってほしい子どもの姿

- \* 友達と一緒に関わり一緒に考えたり、協力したりする姿勢 また友だちに対しても多面的にみる事ができるようになってほしいと思います。
- \* 友達と身体を使って思いっきり遊んだり、給食を楽しみにできる子 そしてよく考える子どもに。感受性の豊かな子に育ってほしいと思います。

## 大池・少路・上野小学校区

- ・新一年生の招待会は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止した。  
中止にならなければ、1年生の子どもたちの学習や生活の様子のビデオを視聴していただき、学習の様子を廊下から参観していただく予定にしていた。  
後日、上野小学校のポスター（写真に説明をつける）を1年生の子どもたちと一緒に作成し、また、子どもたちが育てたあさがおの種とメッセージを招待会に来るはずだった園所にプレゼントした。
- ・引継ぎについては、就学前施設に電話または来校していただき、配慮事項をお聞きした。  
年長児の様子を聞き、入学後も引き続き連携して情報を共有していくことを確認できた。
- ・小学校と就学前施設がそれぞれに「学校だより」「園だより」を通じて、子どもたちの様子や活動内容を共有した。
- ・小学校から案内DVDや子どもたちが作成した手紙などが、年長児の子どもたちに届けられた。

# 野畑・北緑丘小学校区

【参加施設数】 小学校(2)校 こども園(3)園 幼稚園(1)園 保育所(園)(2)施設

## 1、 実施方法

新型コロナウイルスの流行により休園、休校が相次ぐ中ではあったが野畑小学校にて集合開催を行った。

十分なソーシャルディスタンスをとり、検温や手指の消毒を行い参加した。

## 2、 実施内容

メインテーマ「つなごう～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をみずえて～」

にて各学校園所、施設にて現在の子どもの姿について発表していった。

- ・野畑小学校・・・コロナの影響もあって戸外での活動が減り、子どもたちの基礎的な体力面の衰えを感じる。入学前にしっかりと身体を動かすことができているように感じる。
- ・北緑丘小学校・・・一年生ではクラスの中でのルールが子どもたちの中から出てくるようになり、6月頃からまとまっていった。一人ひとりが他者を理解できるようになった。
- ・のばたけ保育園・・・黙食することを心掛けている。保護者とゆっくり話す時間が少ないので新しい環境で馴染めるのか少し心配である。
- ・北緑丘こども園・・・コロナのその時々状況に合わせて行事などは進めていった。  
各クラスの取り組みを写真ベースで壁新聞を作成しお知らせできたのは良かった。
- ・野畑こども園・・・自分で自分の体を支えることが出来ず、転ぶ時に顔から転んでしまう怪我が多いと感じた。一人でできないことでも、お友だちと話し合うことでどうしたらできるのかを知ってほしいが、他の学年の姿を見る機会も少なくもどかしい。
- ・のばたけマミー保育園・・・行事は軒並み中止。乳児はマスクをすることが出来ず、避けるのはどうしても難しい。保護者同士のつながりが減っているように感じ、細かいことまで先生に相談する方も多い。
- ・緑ヶ丘幼稚園・・・4月から様々な話し合いを通して行事ごとでは子どもたちで内容を決めていった。  
食事はパーテーションを設置し、静かに食べることを意識できるようにしていた。プールでは水しぶきを浴びる楽しさを感じられるような水遊びをしていた。
- ・豊中みどり幼稚園・・・感染リスクや子どもの成長において大切な事などを保育者間で考えるとともに、保護者と共有しながら「できること」「必要な経験をどうしたら積めるのか」を考え取り組んできた。大きな園行事では人数制限付きで学年やクラス別に開催して期間限定のオンデマンド配信などを行ってきた。

## 3、 今後の課題・まとめ

昨年度と今年度でも違う点が多々ある。黙食について意識して取り組んでいる園が多かったが難しいところも多い。また、基礎的な体力の衰えをすごく感じる。頭から転ぶ子どもが多い等、継続した運動遊びをぜひ取り入れてほしい。

コロナだからできないではなく「できること」を増やしていく。

出来ることを楽しんでやるのが大切ではないかと考える。

# 東豊中・東豊台・東泉丘小学校区

【参加施設数】 小学校(3)校 こども園(3)園 幼稚園(1)園 保育所(園)(3)施設 児童発達支援センター  
小規模保育事業施設(1)施設 事業所内保育事業施設( )施設

## 1、 実施方法

- ・ 集合開催
- ・ 日時 1月17日(月) 15時30分～16時30分
- ・ 会場 東泉丘小学校 多目的ホール
- ・ 参加人数 16人

## 2、 実施内容

- ・ 本校区では、平成30年度から「自分で考えて行動する子どもを育てる」をサブテーマとして取組みの交流等を行っています。
- ・ 今年度は、このサブテーマに沿いながら、幼稚園や保育園に対する期待や要望が高まり、本来家庭が担うべきしつけや生活習慣についても園が担うこともある状況を背景に、保護者と連携し、家庭とともに自分で考える子どもを育てる工夫について、交流をしました。
- ・ 教科書や問題集等だけでは育てられない子どもの非認知能力について、家庭と連携しながら育てることの大切さを改めて学びました。
- ・ 講義45分、グループ交流15分

○テーマ 家庭と連携して取り組む、子どもが自分で考えるような関わり方について

○講師 大阪総合保育大学 学長 大方美香先生

○内容

- ・ 生活や遊びの中での学びの大切さを改めて意識する。
- ・ 例えば、「はんぶん」という言葉を、字として読めるし書けるけれども、意味を分かっていない子どもがいる。言葉と行いが一致していない。「1こずつ」「3人目」の「ずつ」や「目」とは何か、生活の中で身につく。
- ・ 大人は、時代が変わったことをふまえ、子どもが考える場面を意図的に作り、子どもの様子から、子どもが何に気づき、何を試しているのか等、目に見えない子どもの内面を読み取って、子どもの力を育てていく。

## 3、 今後の課題・まとめ

- ・ 今回、感染防止対策を行いながら参集型で連絡会を開催し、短時間ではあったがグループで意見を交流できたことがよかったと感じています。
- ・ 今後も、テーマに沿った具体的な取組み等について交流をしていきたいです。

## 南丘・新田・新田南・西丘小学校区

- ・校区連絡会は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から書面開催した。
- ・入学後に園以外でも顔見知りの友だちがいることで安心してスタートできるように、近隣園の 5 歳児と交流をおこなった。
- ・小学校教諭が園に来訪。子どもの様子を伝えた。子どもたちは、小学校の先生から話しかけてもらうことで、入学への楽しみや期待が膨らんだ様子だった。
- ・小学校教諭に 5 歳児に何をしておくことが必要か、どのように小学校につなげていけるのかを直接確認することができ、参考になった。
- ・各小学校を就学予定の園児について電話やオンラインで引継ぎをおこない、情報共有した。
- ・学校体験は感染症対策を講じながら行った。就学前の子どもたちが実際の小学校の授業の様子をみて興味関心を持っていた。就学に対して、安心感や期待を持つことができた。
- ・年長児のお店屋さんプロジェクトに小学校の校長先生達を招くために園児が小学校まで招待状と 5 歳児のプロジェクト保育で育つ力をまとめた冊子を持参した。お店屋さん当日は小学校の先生に参加して頂き、5 歳児のプロジェクト保育で育つ力を実際に見てもらい伝えることができた。
- ・小学校訪問では小学校生活の様子を分かりやすくまとめた DVD を見せてもらったり、あさがおの種を 1 人ずつもらったりし、喜ぶ姿があった。又、廊下から授業の様子を見る機会があり、校庭でも遊ばせてもらい小学校に期待を高める事ができた。
- ・小学校の先生に園に来てもらい、実際に進学する子ども達を見た後に、担任から丁寧な引継ぎを行い、連携が取れるように工夫を行った。
- ・園内で小学校についての話をしたり写真や絵本をみたりして、小学校への期待を持てる活動を大切にしました。散歩の際には、小学校の校舎や運動場を見るなどして身近に感じられるよう工夫した。
- ・小学校の子どもたちから学校紹介のお手紙をもらった。年長児は小学校生活に憧れや期待を持っていた。その後、頂いた手紙を修了式の日に園内に掲示し、保護者とも共有した。



# 東丘・北丘小学校区

【参加施設数】 小学校 2 校　こども園 4 園　幼稚園 1 園　保育所 1 園

## 1. 実施方法

今年度の連絡会：新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、年長児の児童の引継ぎのための連絡、情報共有を行った。（訪問・電話等）

体験入学：北丘小学校・東丘小学校ともに時間を限って、参加人数も少なくするために 2 回（2 日間）に分けて行った。（2 月 25 日・2 月 28 日）

## 2. 実施内容

### ① 体験入学（なかよしランド）：

（内容） 1 年生授業・校内見学・運動場で自由遊び

体育館で 1 年生の 1 年間の生活を紹介した動画を視聴

（1 年生からのメッセージを書いた封筒に入れて）1 年生が育てた朝顔の種プレゼント

② 各園所で取り組んでいる資料（「学校だより」「園だより」等）を交換し、教職員に回覧等で共有した。

③ 小学校より担当職員が幼稚園やこども園を訪問や電話連絡にて子どもたちの様子を共有した。

## 3. 今後の課題・まとめ

直接の交流は難しいことが多かったが、双方の子どもたちの様子を教職員が理解し、それぞれの日常の活動で意識することで幼保小の円滑な接続に活かすこととした。

## 桜塚・南桜塚小学校区

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、例年5月に行われていた1回目の連絡会の開催を中止し、2回目の体験入学についての話し合いをZOOMで行った。体験入学が実施できない状況であることから、昨年度に引き続き、学校紹介のDVDを作成し、園に配布・視聴のお願いをした。また、1年生が育てていたあさがおの種を、新1年生にプレゼントした。
- ・小学校と直接連絡を取り合い、お互いの訪問で就学予定の子どもたち及び現一年生の情報共有を行った。オンラインの方法もあるが、お互いの訪問で子どもたちの様子を伝えられたことが良かった。
- ・0～2歳児の施設であるが、引継ぎや情報共有を積極的におこなっていきたい。
- ・小学校の先生に、子どもの様子を見に来てもらい情報共有することができた。
- ・小学校の子どもたち一人一人からメッセージをいただいた。子どもたちは、「給食がおいしいんだって」「待っていてくれるんだって」と嬉しそうに話す様子があった。

## 熊野田・泉丘小学校区

- ・校区連絡会は新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため書面でおこなった。  
小学校の先生に園所の様子を見に来てもらい引継ぎをおこなった。
- ・11月16日（火）に本校の音楽会のリハーサルに来年度入学予定の園児を招待した。  
1年生の合奏を鑑賞してもらおう。各所に事前に連絡し、保護者と園児、また園児数の少ない園には本校に先生の引率のもと来校してもらおう。
- ・引継ぎについて、コロナ禍の中なので、2月には各所に事前に連絡し、園訪問を行った園もあるが、電話においても引継ぎをおこなった。継続して連携をとっていきたいと考えている。
- ・小学校の体験入学に参加し、音楽会を見学した。子どもたちは卒園児と会うことができ、就学に対する期待を高めることができた。
- ・小学校体験入学動画「しょうがこうってどんなところ」を子ども達と視聴した。小学校がどんなところであるかを知ることができた。
- ・今年度の連絡会および体験入学について、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面開催とした。  
「学校だより」や「園所だより」を双方で配布し、子どもたちの様子や活動内容を共有した。
- ・小学校の子どもたちから学校紹介のお手紙をもらった。受け取った年長児は小学校生活に憧れや期待をもつ姿が見られた。その後、いただいた手紙を修了式の日には園内に掲示し、保護者とも共有した。
- ・小学校へ電話連絡し、年長児の子どもたちの様子の引継ぎを行った。また、入学後も引き続き連携し、情報を共有していくことを確認した。

## 中豊島・緑地・寺内小学校区

- ・今年度の連絡会および交流会については、小学校の子どもたちが、入学を楽しみにしている内容の手紙とメダルを作製し、入学予定の子どもたちに各園所を通じて受け取ってもらった。
- ・昨年度同様、体験入学の実施を感染防止の観点から見合わせたが、体験入学時に園児たちに手渡す予定にしていた、「アサガオの種」（1年生が育てたもの）を入学時にメッセージとともに渡すこととした。こども園等には、学校職員が電話連絡をとり、新1年生の引き継ぎを実施した。入学後も引き続き連携し、情報を共有していくことを確認した。
- ・小学校見学や体験入学の時間はもてなかったが、小学校1年生の子ども達一人一人から心のこもったメッセージとメダルをもらった。小学校に進学することに緊張していた子どももいたが、メッセージを担当の先生に読んでもらって「給食おいしいんだって」など、嬉しそうに話す姿があった。
- ・小学校と電話や書面連絡し、年長児の子どもたちの様子を伝えた。また、入学後も引き続き連携し、情報を共有していくことを確認した。
- ・年長児が小学校の子どもたちへ質問の手紙を送った。
- ・年長児が6歳の誕生日を迎えるタイミングに合わせて、『お誕生日キャンプ』（宿泊保育）を行ない、2日目の朝に小学校へ訪問し、校庭で遊ばせてもらう機会を作っている。6歳の誕生日という節目と小学校就学への想いが相まって、就学へ対して前向きな期待を抱けるような取り組みとなっている。
- ・小学校の校庭に時々遊びに行っている。園児が遊んでいる様子を見て、声を掛けてくれる小学生もいて、子どもたちは喜んでいる。少しの関わりでも大切にできたらと思っている。
- ・「幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿」を基に保育活動や毎日の遊びの計画を組み立て、友だちと協力し合い、互いを思いやれるような関係を育てていった。活動の節目や問題にぶつかったときにはクラスで話し合い、“自分たちで”という実感を持ち自信や自立心につながっていくようにした。
- ・年末ごろから、就学に対しての期待や不安を口にする子の姿が見られるようになり、小学校と保育園との過ごし方の違いをみんなで話し合ったり、絵本を通じて就学に対し前向きな期待を持てるようにした。

## 豊島・豊島西小学校区

・今年度もコロナウイルス感染拡大防止の観点から、子どもたち同士の交流を行うことはできなかった。その代わりに、新1年生に入学を楽しみにしてもらおう機会とすることをねらいとし、2月中旬から下旬の図画工作科の時間を用いて、メダル及びメッセージカードを作成し、各園所にお送りすることをした。作成時、児童から「幼稚園の子たち、喜んでくれるかな?」「きれいに作りたいな〜!」などの声があり、制作活動を楽しみながら、新入生の入学を心待ちにしている様子が見られた。

また、今年度は、教職員間での連絡会も実施できなかったため、電話などを用いて、子どもたちの情報交換を行うことができればよかった。次年度は、子どもたち同士の交流や情報交換を通じて、本年度より充実した幼保小交流を行っていきたい。

・就学先の小学校から「まってるね」とメッセージが書かれたメダルのプレゼントをもらい、喜びと共に就学にむけての期待の気持ちが高まった。

・チャイムの音をピアノで弾いてから活動を始めたり、小学校のような座席の配置を試みる等、楽しい雰囲気の中で『小学校ごっこ』を生活の中に取り入れ、就学に向けて期待をもてるように、また気持ちの準備ができるよう配慮している。

・就学に向けて期待と共に不安を感じている子もいる。そこで「小学校で楽しみなこと」をグループ毎でマッピング形式で広げることにより、楽しみの共有をし、「わからないこと」も同じく子どもたちでマッピングしてから保育者が答えることで安心も共有したい。

・お散歩に行く途中で、小学校の前を通り子どもたちに小学校についてお話をした。小学生の声が聞こえてくると「おにいちゃんいるの?」とうれしいような顔をしていた。

・小学生の子どもたちから折り紙のメダルをもらった。うれしそうに首にかけて喜んでいて、0~2歳児の園なのですぐに小学校にはいかないが、大きくなったら小学校に行き、優しいお兄ちゃんお姉ちゃんと一緒に遊びたいと期待を持っている。

・0~3歳までの小規模保育園で小学校に隣接しているが、なかなか交流するのは難しい時期なので、窓から小学校を覗いては何をしているのか興味をもったり、カッコいい姿に憧れをもったりしている。

## 豊島北・原田小学校区

### 1. 令和3年度（2021年度）の状況

今年度も、新型コロナウイルスに対する感染対策を図りながら、子ども達の学びの場や遊びの保障や保護者支援など、各校園で創意工夫してきた事を交流しました。その中で、子どもを取り巻く環境の変化や、子ども達の気になる姿も意見を出しあいました。その事が、今後の課題にも繋がっていく交流になりました。

### 2. 各校園のコロナ禍における取り組み、課題

#### 〈豊島北小学校〉

1 クラス 37 人で少し多い。自分を見てほしい子どもが多く、良いことでも悪いことでもアピールして気を引こうとする。他学年との交流がほとんどない。幼い子どもが多い印象。

#### 〈原田小学校〉

経験不足なのか、友達との関わりを制限されているからなのか、幼い子ども、愛情に飢えている子どもが多い。今までは全員で集まって話す機会があり、“原田小学校の一員である”ことを意識づけられていたが、コロナ禍で集まる機会がなく、小学生である意識も低いのではないかと。

#### 〈てしまこども園〉

コロナを意識してマスクなど習慣づいている。子ども同士で声をかけあう姿も見られる。コミュニケーション能力が不足しているのか、自分の気持ちを言えなかったり、相手の思いを聞けなかったりする。

#### 〈原田こども園〉

制限が多く、マスクをしている幼児としていない乳児との関わりが少なく、クラスでの活動のみになっている。できる事を工夫はしているが、子ども同士の関わりは少ない。保護者参加の行事が少ないので見てもらう場がない。活動を分けるので乳児は乳児だけで過ごすので、のびのび遊ぶ姿が見られるいい面もあった。

#### 〈おひさま岡町保育園〉

1 クラス 16 人。元気に過ごしており、近所の公園へ遊びに行ったりしている。遠足で他市に行くことが難しく、工夫が必要。保護者参加の行事は悩みながら行っている。家で過ごす時間が増えたからか、YouTube、ゲームをして過ごす子どもが多い。支援を必要とする子どもが例年より多いと思われる。

#### 〈ひかり保育園〉

少人数園なのでほぼいつも通りに過ごしているが、できるだけ密にならないように分散保育を心掛けている。遠足などの行事が少なく、経験が少ない。遊びに行くことができないからか、YouTube、ゲームをする子どもが多い。保護者も悩んでいる。参観などで子ども同士の関わりを保護者の方に見ていただく機会が少ないので、普段の子どもの様子を知っていただくことが少なく残念。

・YouTube、ゲームをよく見るため、その真似をして遊ぶ子どもが多い。自分で良し悪しが判断できずに遊び、トラブルになる。また、ゲームのキャラクターは描けるが、人の絵が描けない子どもがいる。

・つまづき、根気のない子どもが多い。例：コマ遊び)ひもコマが難しい。誰かのお手本を見て、真似して練習しようとする姿が例年多いが、難しいからやらない、そもそもできる子どもが少ない。すぐに諦めてしまう、努力をしない、負けても悔しがらない姿が見られる。

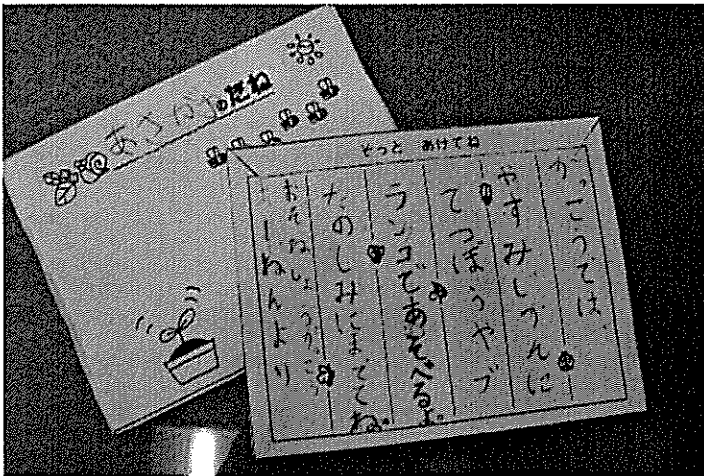
・コミュニケーション不足の工夫として、連休前に親子で遊べるキットを渡すなど、親子の触れ合いの時を作った。

・コロナとは何なのかを『マスクを取ったら』などの絵本を通して伝え、考える機会を作っている。

・マスク越しで表情が読み取りにくいから、コミュニケーションが難しくなっているのではないか。

## 小曾根・北条小学校区

- ・今年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大により体験入学が中止になりました。そこで、1，2年生児童が、お手紙を添えて花の種を園の子ども達に送りました。やはり、学校がどんどこ不安な中、おねえさん、おにいさん達のお手紙で少し安心できると喜んでいただきました。



- ・年長児らが小学校の子どもたちへ質問の手紙を送った。
- ・小学校に進学することに緊張していた子どもたちもメッセージをもらってうれしそうにしていた。
- ・小学校の子ども達から、学校紹介のお手紙を貰った。受け取った年長児は「小学校楽しみだなあ」「僕は小学校でこんなことしたいな」等とつぶやき、良い表情をみせていた。
- ・小学校に不安を感じている園児の様子を小学校へ電話連絡した。
- ・入学前に小学校見学をしてよいと許可を頂き、実行することが出来、園児も小学校入学への不安を和らげることができた。



# 庄内・野田・島田小学校区

【参加施設数】 小学校(3)校 こども園(3)園 幼稚園(2)園 保育所(園)(2)施設 児童発達支援センター  
小規模保育事業施設 ( ) 施設 事業所内保育事業施設 ( ) 施設

## 1. 実施方法（集合開催）

- 開催日時 令和4年（2022年）1月17日（月） 午後15:00-16:20
- 開催場所 野田こども園
- テーマ 「気になるこどもの育ちを引き受けて」

## 2. 実施内容

校区のこども園、保育園、幼稚園の園長並びに年長組の担任と小学校の校長及び1年生の担任が集まり、各施設のとりのくみの内容や校区の子どもたちや家庭の課題について共有する貴重な機会となった。主な交流項目については下記のとおりである。

### ① 小学校1年生の様子（小学校から）

- 1学期は小学校生活にも慣れず、不安な様子があったが、2学期、3学期になるにつれ、学校生活にも慣れ、係活動や班活動ができるようになってきた。
- 小学校生活に慣れた半面、ルールが守れなかったり、友だちとのトラブルもあり、その都度指導している。
- 今年の子どもたちは、家庭からのサポートも多く、協力的であると感じる。
- 小学校入学のタイミングで、姓が変わったり、家庭環境が変化する家庭があり、子どもも不安定になる。

### ② こども園・幼稚園・保育所のとりのくみ

- 思い通りにならないと感情を爆発させてしまう子どももいるが、少しずつ周りの子どもたちも成長し、待ったり、相手の気持ちを思いやったりすることができるようになってきている。
- 学校生活に向けて、行事や普段の活動に、係活動や当番、話し合いを取り入れるようにしている。
- 0歳から5歳まで一緒に過ごすことで、子どもたち同士がお互いの「よさ」を見つけることができるようになってきた。
- 年長組が少人数なので、仲は良いが、外に出ると自分の気持ちを出すのが苦手なのは、と心配している。
- 進学する小学校が17校にもなるため、小学校との連携、特に卒園後の姿を見守ることを大切にしている。
- 年中・年長と2年のスパンで子どもたちに関わっている。年中の時に自分たちが大切にしているキーワードをもとに共同制作に取り組んでいる。

### ③ 気になる子どもや家庭、その他について

- 気になる子どもや家庭の情報交換は、個別に入学予定者について別途、情報交換することになった。
- コロナ禍の中で、「気になる家庭ほど欠席が増えている」傾向があるとの意見があった。
- また、コロナ禍において子どもたちのグループ活動や話し合い活動についての工夫について交流した。
- 全てのこども園・幼稚園で、運動会やキャンプなどの大きな行事だけでなく、日常のトラブルでも話し合いの大切さを子どもたちに実感してもらえよう、工夫を重ねていることが共有できた。改めて子どもたち同士に任せ、もめ事をしかけ、話し合うというサイクルの大切さを実感することができた。

### ④ 新入生保護者説明会と年長さんの体験入学について

- 最後に、小学校より、新入生保護者説明会と体験入学についての情報共有を行った。
- 体験入学は、年長の子どもたちにとって、とても楽しみな行事である。何とか工夫ができないのかという要望も寄せられた。

## 3. 今後の課題・まとめ

今年度もコロナ禍のため、十分な連携の取り組みが展開できず、特に子どもたちにとって厳しい一年となった。しかしながら、各園・校で様々な工夫をすることで、子どもたちが人とのつながりを実感したり、他者と折り合いをつけることの大切さを学ぶ機会を作っていた。子どもたちやその背景となる家庭の課題に対して温かいまなざしを持ちながら、じっくりととりのくみを重ね、小学校入学後もそのことを大切に引き継ぐことのできる校区をめざしたい。

## 庄内南・庄内西・千成小学校区

《日 時》令和4年(2022年) 1月20日(木) 3時30分～

《場 所》庄内西小学校つどの部屋(多目的室)

《参加者》\*北島園長 岩崎 安岡 辻(庄内こどもの杜幼稚園) \*長谷川副園長 斎藤(庄内こども園)

\*武市園長 田中(庄内西こども園) \*勝田副園長 下川(栄町こども園) \*藤原校長(千成小)

\*橋本校長 阿野 佐伯(庄内南小) \*西口校長 大北 稲見(庄内西小) 計17名(敬称略)

《内 容》

### ◎第一部「各校園所の取り組みとこどもの実態交流」

#### 庄内西こども園

16名と少人数。いろんな形で自分の思いを出す子がいるが、お互いに受け止めながら過ごしている。当番活動をグループで行っているが、小さい子との交流ができていない。小学校に行くことにとっても期待はあるが新たな友だちと過ごすことに不安もある。コロナの関係であまり交流を持っていないため、「新しい人と出会う」機会がととても減っている。

#### 庄内こども園

年長15名と少なめ。3～4校に分かれるが、自分の行く学校は分かっている。上靴をはいてみたり、マスクの管理をしてみたり、入学に向けて意識を高めている子も多いが、中には、新しい友だちができるか不安を抱えている子どももいる。不安になったときはどうすればいいか共に考えながら過ごしている。庄内西・庄内・栄町こども園で5歳児交流を行っている。

#### 栄町こども園

運動会後、登校班でグループにわけ、劇遊びや合奏をしたり、昼食を一緒にとったりするなど、友だち関係を深めている。なかなか個性豊かな子どもが多いが、3学期は発表会の劇で使う衣装を創作したり、セリフを考えたり、やりたい楽器を選んだり、個性を生かした取り組みをしているところ。

#### 庄内こどもの杜幼稚園

年長組は2学期から進学先ごとにグループを分けてみた。自分が行く学校に興味を持っている。3学期は発表会(創作劇)のセリフを自分たちで考えるなど、話し合い活動にも取り組んでいる。友だちに自分の考えを話したり、聞いて譲りあったり、折り合いをつける場面も見られるようになっている。

#### 千成小学校

仮称南校の工事が始まるので、来年度末に引っ越し、むこう3年間は庄内南小で同居。本校1年生は穏やかで、友だちにも優しく接することができる児童が多い。友だちと共に学びを深めている。

☆体験入学については、コロナの状況を鑑みると、1年生が年長さんを招待することは難しいと判断し中止を考えている。そのかわり学校紹介のビデオを1年生中心に作成する予定。

#### 庄内南小学校

こども園や幼稚園の大きさとのがいに戸惑う子がいる

1年1組：不登校なく、元気いっぱい。歌(世界中のこどもたちが、にじ)やダンスが好き。けんぱんハーモニカもとても上手。支援の友だちにもとても優しい。

1年2組：不登校なし。落ち着いて過ごせており、45分集中して学習に取り組んでいる。避難訓練では津波の時どうすればいいかよくわかっていた。学習発表会に向けてがんばっている。

☆入学説明会は予定通り行う。体験入学は延期(1/27⇒3/7?)⇒中止

#### 庄内西小学校

指示が通らず離席してしまう児童が数名。落ち着かないスタートだった。

[目標] 学校生活になれ、落ち着いて過ごせるようになる

[取り組み] ・「いいところみつけ」などで自尊感情を高めたりこどもをつなぐレクをしたりしている

・「授業時間」「休み時間」の区別をつけ、同じルーティーン、同じ形式の家庭学習で定着をはかる

・学年で意識を揃え、生活指導はひとつひとつをていねいに(授業の受け方、給食、校内でのルール)

[現状] ・離席児童はずいぶん減り、「書く」ことなど課題に取り組む姿勢も変わりつつある。

☆入学説明会も体験入学も行う予定。⇒体験入学は中止

### ◎第二部「配慮の必要な子どもや保護者等の引継ぎ」

## 豊南・高川小学校区

- ・コロナ禍のために、校区の年2回の連絡会は実施できなかった。  
幼小交流会もオミクロン株流行のため、学級休業が相次いでいたので、昨年度と同様に学校の日を1年生児童が紹介するDVDを作成し、各園に届けて視聴していただいた。1年生児童は、この活動を通して自分たちが2年生へと進級することを改めて意識する機会となった。また、各園所の先生方にとっては、卒園した子どもたちの成長した姿を確認できる機会となった。年長児には、1学年上のお兄さんお姉さんの姿を見て、説明を聞くことで、入学への不安を和らげることができたのではないかとと思う。以前のように実際に交流ができない今、何かできることはないかと考え出した苦肉の策ではあるが、小学校にとっても園にとってもプラスの効果はあると考える。
- ・小学校の先生に入学予定の年長児の様子を電話で伝えたり、実際に園に来て頂きそれぞれの得意なこと、苦手なこと、友達との関わりなどを伝達した。
- ・1年生より学校の施設や授業風景、学校生活を紹介するDVDを頂いた。実際に使う道具や教室を見ることで驚いたり、関心を持つ姿が見られ、堂々と話す1年生の姿や学校紹介に進学への期待が高まった様子だった。
- ・小学校の様子がわかるDVDをいただき、子どもたちと視聴した。卒園生が生き生きと小学校生活を紹介してくれる様子に子どもたちは、安心感を持ち、期待をふくらませる機会になった。
- ・小学校と連絡を取り合い、子どもたちの様子を伝え連携を取れあうようにした。
- ・小学校より小学校の一日、授業内容の紹介などを映したDVDを預かった。コロナのため小学校見学へ出かけることができないため、子どもたちも具体的に小学校のことを知る機会を得られ、進学への期待を高めることができた。また、別の小学校からは1年生が作ったものをプレゼントしたい旨の連絡をいただいた。そのことを子どもたちに伝えるととても喜び、小学生のお兄さんお姉さんに憧れを抱いているようであった。
- ・各進学先へ子どもたちの様子を伝えた。引き続き連携を取り、情報を共有していくことを確認した。
- ・今年度の連絡会および体験入学について、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、直接の交流は難しいとの判断で小学校の子ども達から小学校の紹介のDVDを送ってもらった。観た子ども達は「楽しそう」と小学校に行くことを楽しみにしていた。